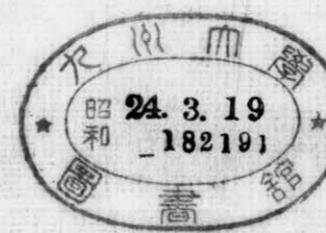




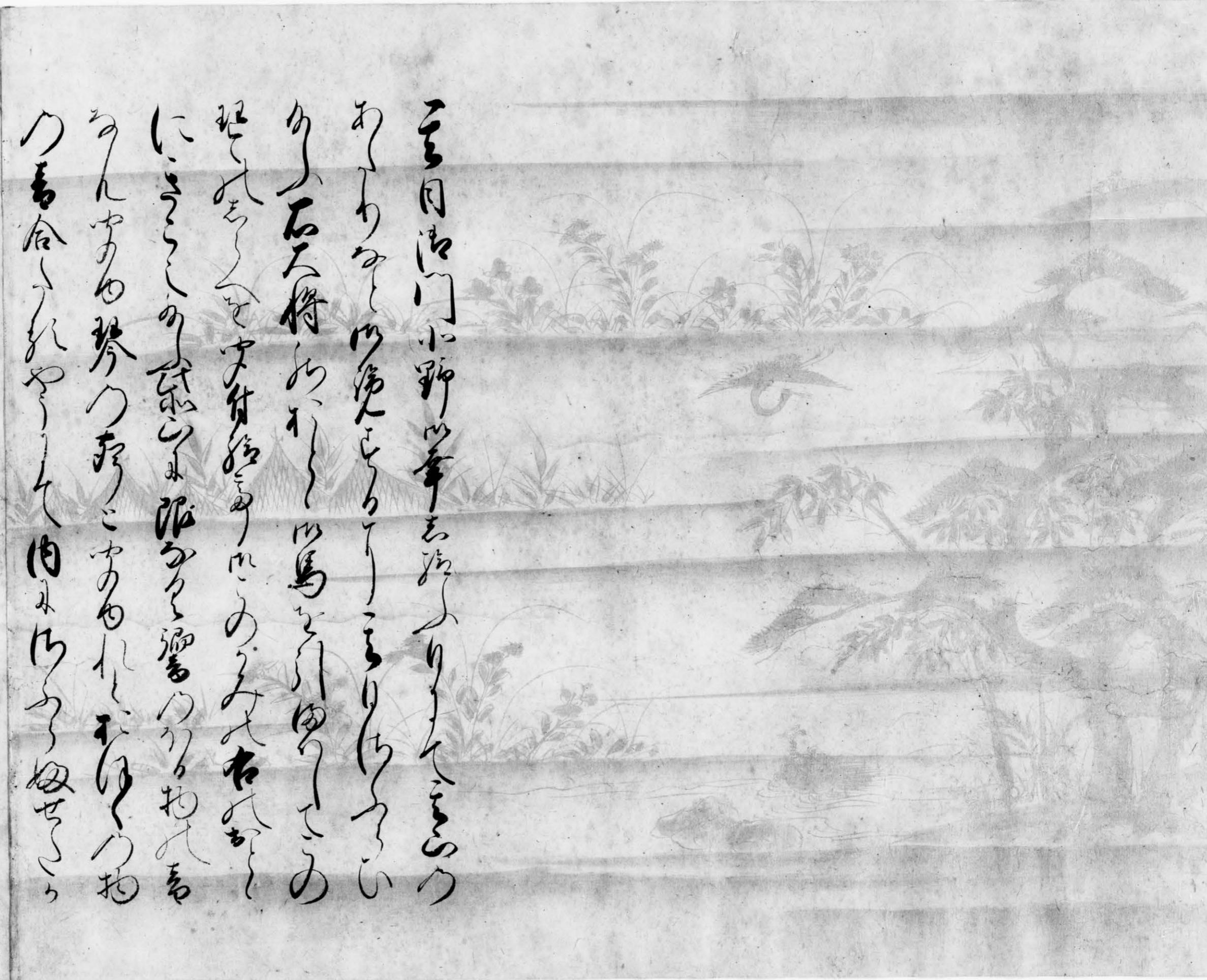
0
100 cm
100
200
300

545
ウ
14



九州大學圖書印

至日酒門小野四事志滿りてまくわ
あめりかの内使ひあらじてまくわい
多石ノ將おれの馬を引車てみ
せれをすすむ所をめぐらすとおれ
にまくわの御車を引車の御車を
うんする琴の音こすれ不思の音
の馬合はれやまくわの御車を
せの一そくの御車を引車てまくわ
うねり在たる御車を引車の御車を
らてわきいわん天杓めくわにさわ
かまくわとおえうの天わ仙人かくわ
とおれりの御車を引車の御車
いきの御車を引車て入車より御車を引
天船けの御車を引車て入車より御車を引



一束ねて金車をすゝめあたして
の娘がそよ親のむじうたをねりあわ
うめらやうてひきかみやくわりが娘わ
やくまくはすされりぬまにます
まく金車んえいわんまにの娘と
うみのふわくまくわんまにの娘と
もうかねてぬくまくわんまにの娘と
おぐくまくわんまにの娘と
うめらにむり行とくら程ごくん物ありけりを
おこそきを眷んじる行
てくくにいたる書いそきくとまく
うじゆくとくとくとくとくとくとくとくとく
うしんじよとくとくとくとくとくとくとくとく
うじゆくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
うじゆくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
うじゆくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



いのまことにゆせゆるに又そのうきよ
のうきよあはうるわねやねくに
御といひむり仰とくへうへ親まみまき
娘もあひてくとくでかんむす母もまご
えまくら字をばた父母もそれてもかき代絵
むぢやがくに主附の名前
丁語経ひへりうゑひく小ちよりに
今んちうつまくゆきやあくにやれぬ人よ
足食とこへゆえうき
らまくらふ今うづくまわらよかうよまく
丁語ひへりく人おさむとあぢきとを
一



後ちのくじをみえぬとおもひて

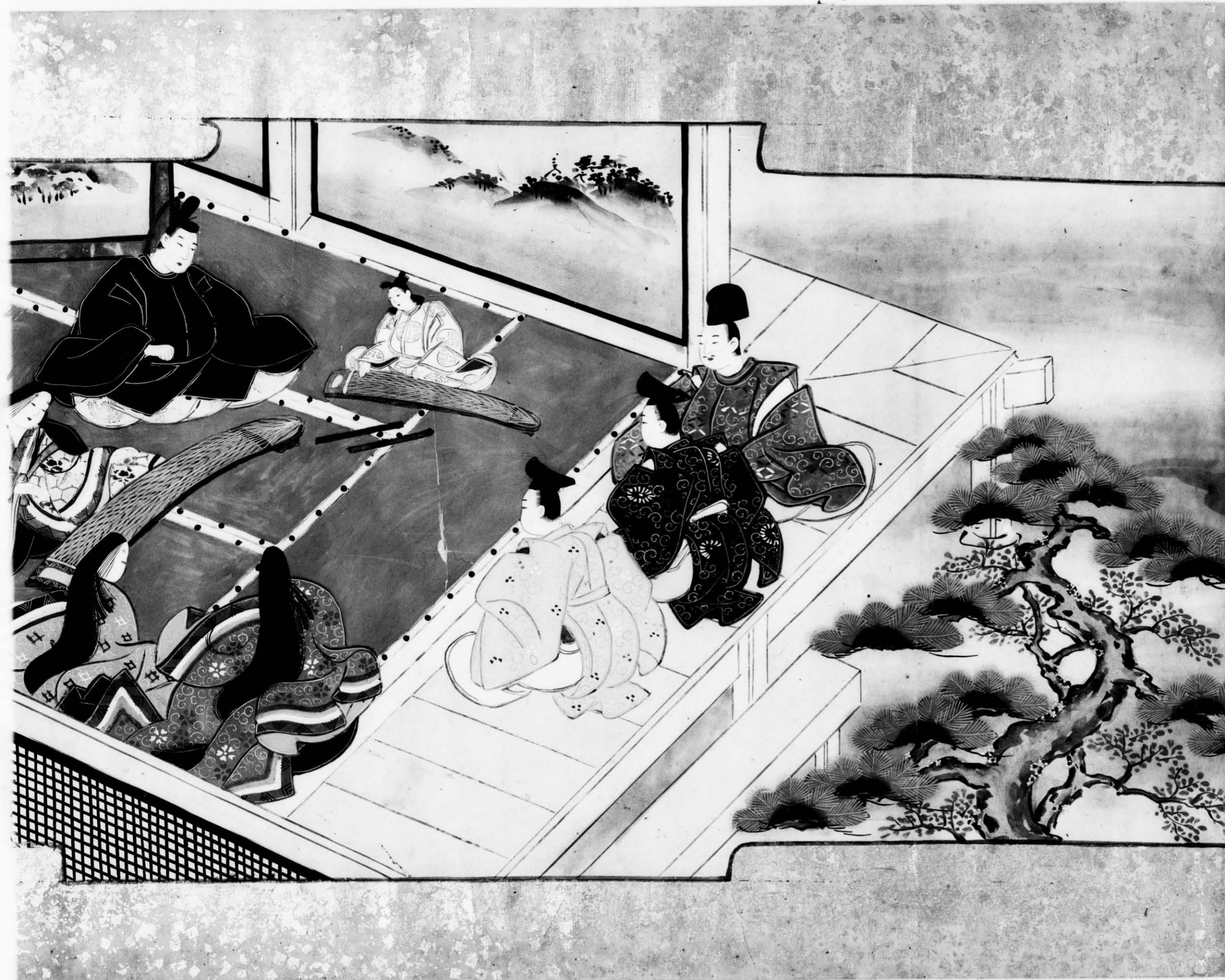
かくかくかくかくかくかくかく

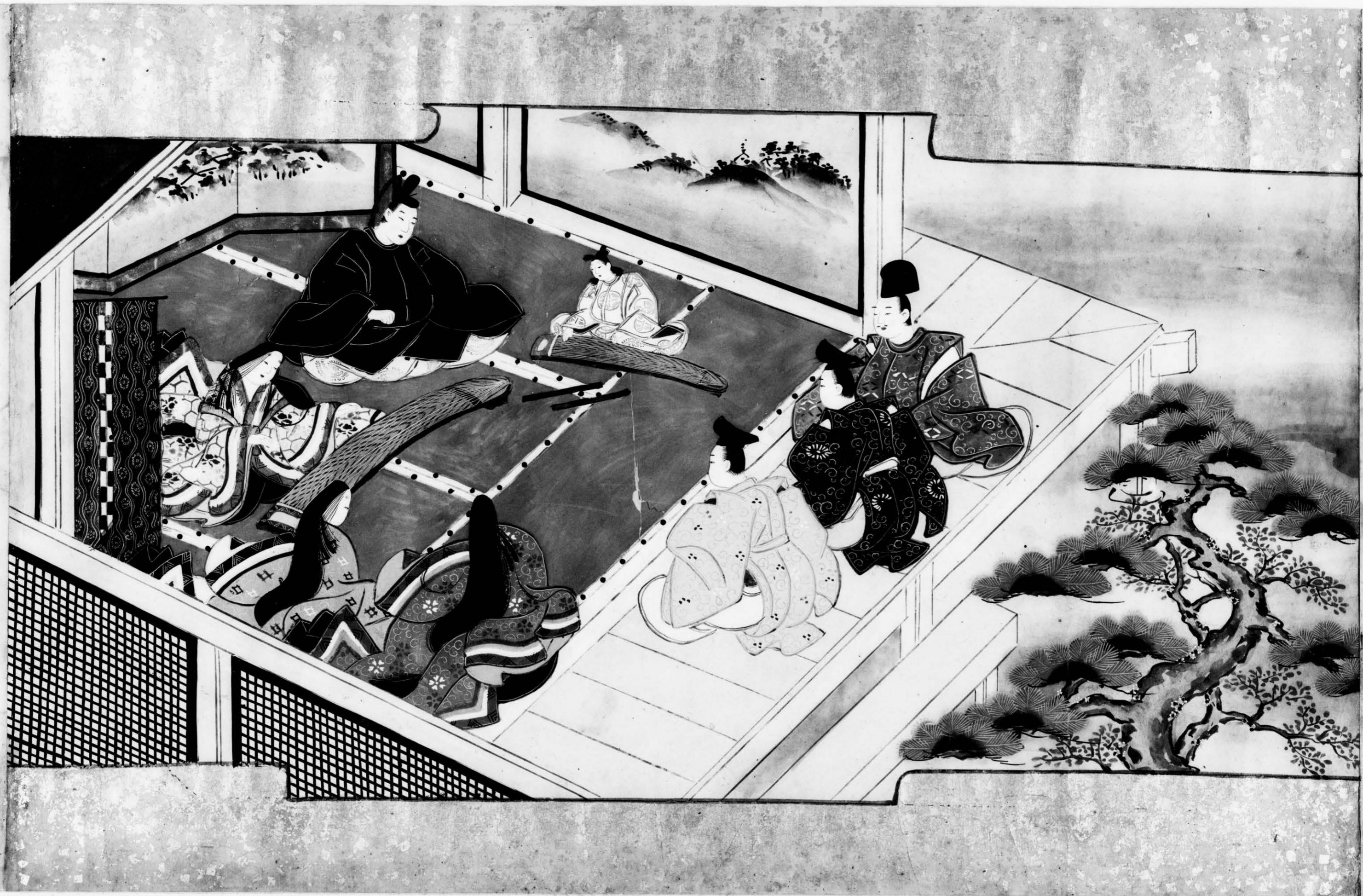
まつりの事はすこしもあらず
かくはうきよとてすくはうきよとてすくはうきよとてすくはうきよとて



まつりの事はすこしもあらず
かくはうきよとてすくはうきよとてすくはうきよとてすくはうきよとて

おもてなしを称す風のあつたは陳年小
此門若く何う仰て重き詫見
ゆきかへりとてかくよひて御文を
二重門三重門とみ取能て又かくと吹
引ひゆきの上を可とて御門にまわる
よやの上を可とて御門にまわる
三重門





東山天子
三年
秋
月
三
日
午
時
御
所
中
の
事
事

三
日
午
時

